

学年部会 テーマ 「放送番組×読書活動×国語のユニバーサルデザイン

～すべての子が想像を広げて楽しんで読む授業デザイン・1年～

実践内容 「放送番組『おはなしのくに』から想像を広げて楽しんで読む子を育てる」

教科・単元名 日常の読書活動&国語「おむすびころりん」「むかしばなしがいっぱい」

1. 実践活動のねらい

放送番組『おはなしのくに』は、日本や世界の昔話・童話・民話・名作を一流の語り手が表情豊かに語る読み聞かせの番組である。文字が読めない1年生にとって、『おはなしのくに』を視聴することで、すべての子が小学校入門期の読書活動に期待感をもちながらお話の世界を楽しむことができると考える。また、物語の内容をイメージとしてとらえることができ、場面の様子を押さえたり、想像を広げたりすることが期待できる。

本実践では、日常での読書活動と、国語において活用する。番組活用の効果を生かして、多様な表現活動へと繋げたり学習への期待感を高めたりすることで国語のねらいに迫り、すべての子が読書活動を楽しむことができるというユニバーサルな授業デザインを検証した。

【国語 1・2年生「読む」のねらい】

書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり、**想像を広げたりしながら読む**能力を身に付けさせるとともに、**楽しんで読書しようとする**態度を育てる。(小学校学習指導要領解説 国語編(文部科学省) P. 38より)

2. 実践の内容・経過

●番組分析と年間視聴計画

<表1：年間視聴計画> * は国語の単元に位置付けて活用

4月	第1回「ロボット・カミイ」視聴 自由に感想を発言
5月	第2回「ジャックと豆の木」視聴 感想を読書カードに記入
6月	第6回「おむすびころりん」視聴 教科書教材と関連させる(朝の読書タイム)
7月	第4回「おおきなから」視聴 教科書教材と関連させて単元に位置付ける 第10回「王さまと九人のきょうだい」視聴 ブックトークによる夏休み本の紹介
9月	ほんはともだち 好きなところ紹介スピーチ 第3回「北風と太陽」視聴 第9回「みにくいあひるの子」視聴 感想を読書カードに記入(朝の読書タイム)
10月	第13回「長ぐつをはいたねこ」視聴 第14回「雪女」視聴 感想を読書カードに記入(朝の読書タイム)
11月	むかしばなしが いっぱい 第12回「かさじぞう」視聴 教科書教材と関連させて単元に位置付ける 第5回「アラジンとまほうのランプ」視聴 感想を読書カードに記入(朝の読書タイム) ※お気に入りの昔話発表会の開催

HP で視聴可能な90本のおはなしの中から、単元と関わるように視聴計画を作成した(表1)。「昔話」というジャンルや話の構成が似ているといった視点で関連づけていくことで、自ら本に手を伸ばし、本を読む楽しさを味わえるようにした。日常の読書活動の一つとして活用しながら、国語の授業の導入としても位置付けていった。

●視聴後の活動をパターン化

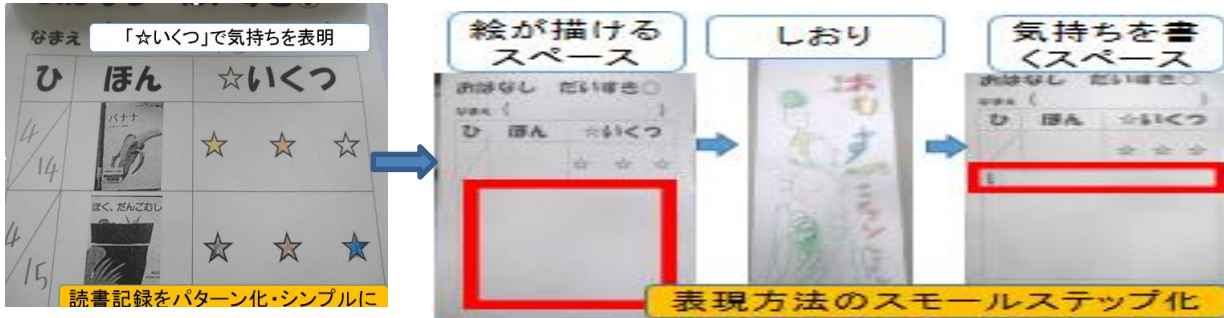
視聴後の活動を毎回同じようにするよう心がけた。見通しをもって、あるいはこれまでの経験を生かして期待感や安心感をもって読書をするをねらった。文字を読むことに困り感のある子ども、読み物単元に抵抗なく入ることができた。

1. 番組視聴
2. 「☆いくつ」の記入
3. 感想を好きな表現方法で表す
4. ペアで交流
5. 全体で交流
6. 絵本の紹介を聞く

また、表現方法を少しずつ増やしていったり、交流の仕方を工夫したりすることでパターンの中にも変化をもたせ、飽きずに取り組めるようにした。

●子どもの実態に合わせて変化した読書記録（☆いくつ）

はじめは、「☆いくつ」という☆の数や色で気持ちを表明するものだった。しかし、空いたスペースに絵や文字をかく児童が現れたため、絵や文字（気持ち）をかける読書記録を作成した。その後、国語「おむすびころりん」でしおりやペーパーパート、「おおきなかぶ」では絵本づくりなど多様な表現方法へと発展した。



●おはなしを聞いて思ったことや想像したことを表現する多様な方法

読書記録から発展してしおり作りをした際、「動かしたら面白そう!」という子どものつぶやきから「ペーパーパート」劇をクラスみんなで行った。今では、「しおり」「ペーパーパート」「絵本」「絵」「手紙」から自分が好きな方法を選んで表現している。多様な方法の中から自分にあったものを選ぶことで「おはなしを聞いて思ったことを表現したい」という意欲に繋がり、友だちの発表も興味をもって聞くことができる。



●番組HPにある絵本や図書室の本へ繋ぐ

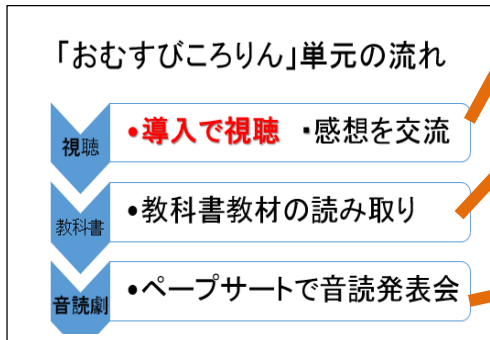
番組のサイトでは、おはなしが絵本の形で印刷できるようになっている。また、関連した本の紹介も載っているので、それらを学級文庫としていった。普段は本を手にとらない子どもも、休み時間にも読んでいる姿が見られた。

国語「おむすびころりん」（6月）での番組活用 活用番組『おむすびころりん』

単元のねらい：語や文としてのまとまりや内容、文のリズムに注意しながら声に出して読む。
場面の様子や登場人物について想像を広げながら読む。

●日常の読書活動を生かした音読発表会

おはなしの感想を絵に表すことが好きな子ども達の実態から、番組を視聴後にしおり作りを行った。そこで「これを動かして劇にしたら面白そう」と子どもから声があがり、ペーパーパート劇をゴールに設定した。単元の最後まで意欲を持続させて取り組むことができた。



<視聴後の流れ> 日常活動と同じパターンで(安心感)

- 番組と教科書を比較
(登場人物の把握・文のリズム・場面の様子を把握)
- 場面の並べ替え(ペアで)
- 教科書に人物ごとの行動・会話を色分け
- 吹き出しで主人公の気持ちを考える
- 役になりきって音読練習

- ◎番組から学んだ音読表現を取り入れて発表
(音程をつけて途登場人物の嬉しい気持ちを表す)
- ◎活字が苦手な子も、休み時間もペーパーパートで練習

国語「むかしばなしがいっぱい」(11月)導入での番組活用 活用番組『かさじぞう』

本時のねらい：読み聞かせを聞きながら、昔話を楽しむことができる。(1/5 時間目)

●好きな場面を明確にして表現活動へ

これまでの活動を振り返ると、読書記録にかいた感想(場面)と表現した内容がリンクしていない子がいた。そこで、新たに、表現活動に入る前に「好きな場面にネームプレートを貼る」活動を取り入れ焦点化を行った。その後の交流活動では、感想・場面に関する意見も交流できるようになってきた。

1. 番組視聴
2. 「☆いくつ」の記入
3. 好きな場面にネームプレートを貼って表明
4. 感想を好きな表現方法で表す
5. ペアで交流
6. 全体で交流
7. 絵本の紹介を聞く

これまでのパターン+3

<授業を参観した同僚の先生から>

「ネームプレートを貼って表明することで、すべての子が参加できていた。」「おはなしの山場にあたる場面に、多くのネームプレートが貼ってあって、物語の面白味をわかっている。」「おはなしを聞いて楽しんだことをどんどん表現していた。クラスでの交流は温かい雰囲気、発表に対する感想も多く手が挙がっていた。」との声があった。

3. 考察・成果や課題

<日常の読書活動の成果>

日常の読書活動で番組を活用し継続視聴や視聴後の活動によって、おはなしの世界を想像し、楽しんで表現できるようになった。

こうした活動を繰り返し継続して取り組むことで、絵本を読む活動へ繋がっていき、子ども達が自分から本に手を伸ばすようになった。

<国語での番組活用の成果>

日常の読書活動での取り組み生かして、国語の授業でも番組活用を行った。多様な読書活動の場を単元のあちこちに作ることで、どの子も想像を広げながら楽しむことができた。文のリズムに着目して音読したり、想像した登場人物の気持ちを声やペープサートの動きで表現したりといった姿が見られ、単元のねらいを達成することができた。

